

モバイル・ハイブリッド工法Ⅱで受注拡大へ

いずみテクノス 積水化学と新技術を共同開発

コア技術であるリノベ

(株)小泉(長坂紘司社長)グループの設備工事会社「いずみテクノス(株)(中間太麓社長)」は、画期的な新工法「モバイル・ハイブリッド工法Ⅱ」(M・H工法Ⅱ)により、ビル・マンション等の排水管更生事業の拡大を目指す。

す。同工法には、排水管でもっとも改修が難しいとされる共用横主管の更生技術に、積水化学工業(株)と共同開発した新技術「リノベライナー工法」を採用。これにより品質向上と経済性(更新工事のほぼ50%)を武器に、一層の受注拡大を狙う。M・H工法Ⅱは、両社が共同開発したリノベライナー工法を中心に従来工法の吸引工法と吸引ピエ工法を組み合わせた新

排水管更生工法。リノベライナー工法は、マンシヨンの給排水管改修に豊富な経験を持ついずみテクノスと公共インフラ分野の各種工法の開発で高い実績を持つ積水化学工業(株)が共同で開発した。同工法の特長をみると、横主管部は清掃後、形状記憶塩ビ管を挿入して既設管内部に密着させる。これにより新品とほぼ同様の排水機能を発揮することができる。

ライナー工法は、建物中のすべての排水が集中し最も傷みやすい共用横主管に、楕円状に折りたたんだ形状記憶性を持つ硬質塩化ビニル管を挿入し、蒸気と圧縮空気で円形に復元、管内に密着させる。地面を掘り返して横主管を取り替える、または横主管内部の塗料を塗り直す従来工法に比べ、既存管内部に新しい管を形成する点が大きく異なる。埋設部分を掘り返す開削工事が不要なため、開削する場合に比べて環境に優しく工期も大幅に短縮でき、費用節減につながる。横主管内部に新しく塩ビ管を通すため、塗料を塗り直す場合

に比べてむらや塗り残しがなくなる。マンシヨンの専有部分にある比較的細い排水管は吸引工法で施工。研磨剤による研磨・清掃後、吸引気流できめ細かくライニングを行う。また、

共用部立管には最も適した吸引ピエ工法を用いる。高圧ジェット洗浄と研磨剤の吸引により付着物を除去、最上階より塗料を吸引させたあとにボール状の器具(ピグ)を使ってライニングする。

専有部を吸引工法、共用部立管を吸引ピグ工法で施工するモバイル・ハイブリッド工法に新たにリノベライナー工法を加え、モバイル・ハイブリッド工法Ⅱとして格段に進化した。